

## 主 題：偽教師への神のさばき 2

聖書箇所：ペテロの手紙第二 2章9-10a節

ペテロは「神のさばきと救い」について語り続けます。

神のさばきが下るときが来る、ということを感じている人は多くいるはずですが、自分がその対象であると思っている人は少ないでしょう。自分だけは間違いなく天国に行けると信じている人はたくさんいます。私もその一人だったし、皆さんもそうだったかもしれません。良いことをしているから、いい人間だから私は間違いなく天国に行けると。ですから、「さばき」のことを聞いても、自分とは全く無関係のことだと思いました。なぜなら、もし自分の罪が明らかであり、自分がさばきの対象だと真から思っていたなら、当然、その人は脱出の道を模索しているはずですが、でも、こうして聖書のみことばを見て私たちが教えられることは、神の人類に対するメッセージとは、各人は例外なくさばきの対象だということを明確にしていることです。

実は、そのメッセージこそがノアのメッセージでした。「罪を悔い改めなさい。そうでなければさばきが来る。神の救いをいただくように。」とノアは語り続けました。でも、このメッセージを聞いても、人々は決して心を開くことがありませんでした。どの時代であっても、ダビデが言ったように、人間の本質的な問題は「神の前に恐れをもっていない」ということです（詩篇36：1「罪は悪者の心の中に語りかける。彼の目の前には、神に対する恐れがない。」）。神の前にあって、神がすべてのことをご覧になっているにも関わらず、私たちはその神に対して恐れをもっていないのです。恐れがないから好き勝手なことをするのは、さばきがないと思っているから好き勝手に生きるのです。そのような生き方は、その一人一人が自分には救いが必要だと微塵も思っていないことを明らかにしています。そのような人たちがこの世界を満たしているのです。あのノアの時代も、また、ロトの時代もしかりです。主イエス・キリストがおられた時代もそうだし、また、初代教会もそうでした。そして、今も、人間は本質的に変わっていません。神に対する恐れを持たずに自分の好き勝手な生活をしているのです。そして、自分には救いが必要であるとは決して思っていないのです。

私たちが思い出すべきことは、旧約の時代も新約の時代になっても神のメッセージは全然変わっていないということです。覚えておられますか？バプテスマのヨハネはどのようなメッセージを語ったのか？彼は「自分には救いは必要ではない」とそのように信じ込んでいた宗教家たちに対して語りました。厳格なユダヤ教徒たちは「律法を守っているから自分たちは救いを必要としない」と思い込んでいたのです。ところが、バプテスマのヨハネが語ったメッセージは大変厳しいものでした。ルカ3：7-9、18「：7 それで、ヨハネは、彼からバプテスマを受けようとして出て来た群衆に言った。「まむしのすえたち。だれが必ず来る御怒りをのがれるように教えたのか。」、ヨハネはさばきが来ることを強調しました。そこで「：8 それならそれで、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。『われわれの父はアブラハムだ』などと心の中で言い始めてはいけません。よく言うておくが、神は、こんな石ころからでも、アブラハムの子孫を起すことができになるのです。：9 斧もすでに木の根元に置かれています。だから、良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。」「：18 ヨハネは、そのほかにも多くのことを教えて、民衆に福音を知らせた。」と、このように語っています。「救われているから、自分には救いなど必要としない」と思い込んでいたこの宗教家たちに、「あなたには救いが必要である。だから、罪を悔い改めて救いをいただくように」と語りました。

パウロも同じようなメッセージを語っています。ギリシャのアテネにあって学者たちに彼が語ったのは「神のさばきと救い」についてでした。使徒の働き17：30-31「：30 神は、そのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。：31 なぜなら、神は、お立てになったひとりの人により義をもってこの世界をさばくため、日を決めておられるからです。そして、その方を死者の中からよみがえらせることによって、このことの確証をすべての人にお与えになったのです。」、私たちが知らないだけで、神の中にはもう日が定まっているということをパウロは知ってそのことを語りました。さばきが来る、その日が定まっている、そして、あなたがたはそのさばきの対象だと、そのように伝えたのです。このことが事実であるというその証拠こそがパウロによれば「イエス・キリストのその死からのよみがえりである」と、パウロは学者たちに罪の悔い改めを語り、神のさばきの日が来ることを伝えました。こういうメッセージを語ったにも関わらず、多くの学者たちの反応は32節「死者の復活のことを聞くと、ある者たちはあざ笑い、ほかの者たちは、「このことについては、またいつか聞くことにしよう」と言った。」でした。もちろん、この中でも救いに与る者がいたということは感謝です。しかし、多くの学者たちはこのメッセージを聞いても心を開こうとしないのです。さばきが来るということを知っても、その罪を認めて悔い改めようとしません。

パウロはこのメッセージを語り続けたとエペソの長老たちに話しています。パウロがミレトに行ったときにエペソ教会の長老たちを呼び寄せて、彼は、人種に関係なくすべての人たちに同じメッセージを語って来た。「神に対する悔い改めと私たちの主イエスに対する信仰」をはっきりと主張したと言います。使徒20：18-21「18 彼らが集まって来たとき、パウロはこう言った。「皆さんは、私がアジアに足を踏み入れた最初の日から、私がいつもどんなふうにあなたがたと過ごして来たか、よくご存じです。19 私は謙遜の限りを尽くし、涙をもって、またユダヤ人の陰謀によりわが身にふりかかる数々の試練の中で、主に仕えました。20 益になることは、少しもためらわず、あなたがたに知らせました。人々の前でも、家々でも、あなたがたを教え、21 ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰とをはっきりと主張したのです。」と。

ですから、皆さん、時代がいつであっても、同じメッセージが語られ続けて来たのです。私たち人間はこのメッセージを聞かなければなりません。神が常に語っておられること、「罪を悔い改めなさい。そして、この救いに与りなさい。そうでなければ、必ず、さばきが来る。」と。考えてみると、多くの人たちが言うように、人間は死んでそれで終わってしまうとするなら、主イエス・キリストはこの世に来る必要はなかったのです。そして、私たちの罪を負って十字架で身代わりにさばきを受けてくださる必要もなかったのです。しかし、イエス・キリストは来られたという事実、十字架で死なれたという事実、この事実は私たちに必ず神のさばきの日が来るということをはっきりと示しています。そして、そのさばきの対象は、神の愛を、また、主イエス・キリストのいのちと引き換えに備えてくださった完全な救いを自らの意志をもって拒み続けている人たちです。それが対象です。あなたのことです。福音のメッセージを聞いても聞いても心を開こうとしない。神が救いを備えてくださっているのに、それを自らの意志で拒み続けている。そんなあなたに神が警告されることは「さばきが来る」ということです。

教会に偽教師たちが入り込んで来た。そのことは私たちがすでに見て来ました。彼らは神の真理に反する教えをもって教会の人々を惑わしていました。まさに、彼らは先にダビデのことばを見たように、神に対する恐れをもっていないのです。パウロが言ったように「彼らの目の前には、神に対する恐れがない。」（ローマ3：18）のです。まさに、そのような生き方をしていたこの偽教師たち、どれほど神に逆らっていても、どれほど神のみこころに背くことを語っていても、彼らは恐れを抱いていなかったのです。恐ろしいことです。しかし、そのような人たちが教会の中に入り込んで来たゆえに、そして、多くの人々が混乱していたゆえに、ペテロはこの教会の愛する兄弟姉妹たちがしっかりと真理に立って、そのような惑わしに惑わされないようにと願って、今一度、真理を教えたのです。

#### \* ペテロは偽教師たちへの神のさばきを強調することで、教会に警鐘を鳴らし続けた

ペテロは、この2章から、偽教師たちがいかに神のさばきにふさわしい者なのか、そのことを明らかにしていきます。偽教師たちの隠れたペールを剥がすことによって、彼らの真相を暴き、彼らが必ず服する神のさばきを強調します。ですから、この2章の終わりまで、まさに、そのさばきについて、なぜ、彼らがさばかれるのか？その理由が繰り返して教えられています。恐らく、ペテロはそのことによって、偽教師たちに惑わされている者たちに、「しっかりと見なさい。あなたがたを惑わしているこの教師たちはカリスマ性があったかもしれない、納得するような話をしてきたかもしれない。でも、神のみこころに反することを語る者たちは偽教師であり、そして、彼らは必ず神のさばきに服する。惑わされてはいけない。しっかりと神が教えてくださっている真理に立ちなさい。」と、そのことを改めて教えています。

これは今の時代でも同じです。私たちがいろいろな間違った教えに惑わされないためには、私たちが神のおことばにしっかりと立つことです。前回見たのは2：1-8で、偽りの教師へのさばきが確実に訪れると「さばきの確実性」を見ました。しかも、ペテロは三つの歴史的事実をもってそのことを明らかにしました。

#### ☆ 「偽教師たちへのさばき」 2：1-22

##### A. さばきの確実性 : 彼らへのさばきを三つの史実から証明 2：1-8

1. 罪を犯した天使へのさばき 4節
2. 罪深い全世界へのさばき（大洪水によるさばき） 5節
3. 罪深い町へのさばき（ソドムとゴモラへのさばき） 6-8節

この史実に基づいてペテロが教えたことは、これが事実である以上、必ず、この神の約束は成就するということです。必ず、偽教師たちはさばきに服すると、そのことを強調するのです。もちろん、私たちが知っていることは、さばきに遭うのは偽教師たちだけでなく、先ほどから見ているように、神の真理に逆らう者たちも同じだということです。でも、特に、ペテロは偽教師たちを挙げて、彼らがいかに神のさばきにふさわしい者であるかということをはっきりと示します。

##### B. 公正なさばき 9節

9節では、神が為さる公正なさばきについてペテロが教えています。「これらのことでわかるように、…」

と先ずここで止めます。日本語の聖書ではこのことばで始まりますが、実は、これは訳者によって補足されたことばです。原文にはこのことばはありません。これは、前からつながっていることを表しており、ペテロが言った三つのさばきが実際に起こった、それゆえ…と、そのことが分かるように敢えて「これらのことでわかるように、」ということばを補足したのです。

実は、原文では最初に書かれていることばは9節の最後のことば「心得ておられるのです。」という動詞です。その後「主」という名詞が続いています。原文ではこのような配列になっています。理由があるのです。ペテロはこのような配列をすることによって「主」を強調しようとするのです。この「主」がさばきを下される、そして、さばきを下される主がどんなお方なのか、この方にはさばきを下す権利があるということを明らかにするのです。

◎なぜ、この方に権利があるのか？（この後見ていきますが、）

・主なる神はすべてのことをご存じだということ

この神の前に隠しおおせるものは何一つありません。この方はあなたのすべてをご存じです。あなたがこれまでに考えて来たこと、して来たこと、想像して来たこと、なんでもすべてのことをご存じです。人間の目をごまかすことはできても、残念ながら、神の目をごまかすことはできません。だから、神なのです。ペテロは「この方はすべてのことを知っておられる。だから、この方が下すさばきは公正だ」と言っているのです。

・約束したことを必ず成就する力をもっておられる

このことも明らかにします。たとえ、あなたのすべてを知っていても、もし、力がなくて言ったことを成就できなければ神ではありません。神は全知全能のお方です。どんなことでもできるお方であり、すべてのことを知っておられるお方、それが私たちの創造主であり真の神であられるのです。

ペテロはここで、神はすべてのことを知っておられるから、すべての人に正しい公正な審判を下されると言います。ある者には「祝福」を与え、ある者には「さばき」を下すと、そのことが9節に記されていて、主にはその約束を成就する御力があることを明らかにしています。

1. 敬虔な者への祝福

「主は、敬虔な者たちを誘惑から救い出し、」、これが「敬虔な者たち」に約束された神の祝福です。

・「敬虔」： この「敬虔」ということばは「良く」と「敬う」という二つのギリシャ語が合成されてできていることばです。ですから、敬虔とは「神を敬う、信心深い」ということです。別の言い方をすると、「敬虔」な人とは「神を愛して神に従い続けている人」のことです。神が喜ばれることを行いたいと願いつつ、日々、主の助けをいただきながら歩んでいる人のことです。まさに、ここにあるのは「本当のクリスチャン」のことです。その「本当のクリスチャン」にどんな祝福が約束されているのか？見てください。

・誘惑： 「誘惑から救い出し、」とこれが祝福です。「誘惑」と書かれていることばは、確かに、「誘惑」という意味もありますが、「テスト」という意味もあります。つまり、「試みる、試す、試験」です。このことばは良い意味でも悪い意味でも使われます。良い意味では「神は私たちが試みられる」で、神は私たちに試練を与えられる。それは私たちの成長のためです。同時に、悪い意味では「誘惑、試みられること」、ある辞書によれば、「罪を犯すようにと熱心に試みる、攻撃する」とあります。

このような使い方がされたのは、イエスの誘惑のときです。ルカ4：13に「誘惑の手を尽くしたあとで、悪魔はしばらくの間イエスから離れた。」とあります。だから、悪魔はイエスを攻撃してイエスが罪を犯すようにと誘惑したのです。ですから、「誘惑」は良い意味にも悪い意味にも使われるのです。今見ているⅡペテロ2：9の「誘惑から救い出し」の欄外脚注には「あるいは『試練』」と説明されています。どちらかと言うと、ここでは、クリスチャンが経験する様々な試練、信仰ゆえに経験するいろいろな試み、もっと言えば、様々な迫害、苦しみ、それらが含まれていると、そのように見ることができます。

なぜなら、この少し前のⅠペテロ4：12にペテロがこのように教えるからです。「愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間に燃えさかる火の試練を、何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく、」「燃えさかる火の試練を」という表現をペテロがしたのは、燃えるように熱い大変な苦しみがあるということです。ですから、このことばを使うことによって、この教会の多くの人たちが信仰ゆえに大変な困難を経験していたことが分かります。この小アジア、現在のトルコに当たりますが、その地域において、政治的にも社会的にも経済的にも大変不安定な状況下に教会は存在していたのです。

また、同時に、ネロによる迫害が彼らのところにも迫っていました。それゆえに、大変な困難を経験していたということが、このペテロ第一の手紙のいくつかのことばによってそのことが明らかです。たとえば、Ⅰペテロ2：12「異邦人の中にあつて、りっぱにふるまいなさい。そうすれば、彼らは、何かのことであなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのそのりっぱな行いを見て、おとずれの日に神をほめたたえる

ようになります。』、3：14には「いや、たとえ義のために苦しむことがあるにしても、それは幸いなことです。彼らの脅かしを恐れたり、それによって心を動揺させたりしてはいけません。』、4：14には「もしキリストの名のために非難を受けるなら、あなたがたは幸いです。なぜなら、栄光の御霊、すなわち神の御霊が、あなたがたの上にとどまってくくださるからです。』と書かれています。ですから、こうしてペテロが記した第一の手紙を見たときに読者たちが信仰ゆえに大変な困難、迫害を経験していたことを見て取ることができます。⇒イエスはこのように言っています。ヨハネ15：20「しもべはその主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害します。もし彼らがわたしのことばを守ったなら、あなたがたのことばをも守ります。』と。

⇒また、パウロも使徒の働き20：19でこのように言っています。「私は謙遜の限りを尽くし、涙をもって、またユダヤ人の陰謀によりわが身にふりかかる数々の試練の中で、主に仕えました。』

今日のテキスト、Ⅱペテロ2：9には「…主は、敬虔な者たちを誘惑から救い出し、』とあります。敬虔な信仰者たち、主を愛する者たちを神はちゃんと救い出してくくださるのだと、そのような約束をペテロは与えました。恐らく、これを読んだ読者たちは大きな励ましを得たことでしょう。不安ばかり、いろいろな信仰ゆえの迫害を経験していました。孤立を味わっていた人もあったでしょう。家族からの迫害もあったかもしれません。いろいろなことの中でも「でも、神はあなたを守られる。』とペテロは言いました。この神の約束はこのような迫害下にある者たちにとって大きな慰めです。

この迫害はまだ終わっていないことは皆さんご存じです。今私たちが生きているこの時代も、今この瞬間にも起こっています。アメリカにゴードンコモエルという神学校がありますが、そこに「全世界キリスト教調査センター」というものがあります。その報告でクリスチャンのことをこのように報告しています。過去10年間に、世界で殉教したクリスチャンの数はいったいどれ位か？と。90万人だと言います。ということは、1年間に世界中で約9万人のクリスチャンたちが殉教しているのです。数から言うと6分間に一人のクリスチャンが殺されていくのです。もちろん、どのような信仰なのか、詳しいことはわかりませんが、調査したのは、教会に属している人たち、クリスチャンだと言っている人たちでしょう。これは2000年前のことではありません。今、私たちが住んでいる今のこの世界のことです。驚きではありませんか？

イギリスのBBCがこのようなレポートをしています。2006年から2011年に起こった宗教的差別に関してレポートしていますが、自分の信仰に対する差別です。クリスチャンが差別を受けたと報告した国々は世界中で145カ国あったと言います。これは他のどの宗教よりも多いのです。私たちが「迫害」と言っても私たちの周りでは起こっていませんが、多くのクリスチャンたちが今もいのちを落としているということです。もちろん、比べようはありませんが、私たちがいろいろな迫害を経験したことがあるでしょう。信仰をもったとき親から責められたこと、友人を失ったこと、孤独を経験したこと、あなたが神に従っていこうとすると人からは「変わっている！おかしい、だから、宗教はこわいのだ。』といろいろなことを言われたかもしれません。ヘブル書の著者はこのように言っています。ヘブル11：35-38「:35 女たちは、死んだ者をよみがえらせていただきました。またほかの人たちは、さらにすぐれたよみがえりを得るために、釈放されることを願わないで拷問を受けました。:36 また、ほかの人たちは、あざげられ、むちで打たれ、さらに鎖につながれ、牢に入れられるめに会い、:37 また、石で打たれ、試みを受け、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊ややぎの皮を着て歩き回り、乏しくなり、悩まされ、苦しめられ、:38 —この世は彼らにふさわしい所ではありませんでした——荒野と山とほら穴と地の穴とをさまよいました。』

迫害のレベルはどうであれ、神はあなたにすばらしい約束を下された。それは「わたしはあなたとともにいる。』です。マタイ28：20「…見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。』とイエスは約束してくださっています。うれしいことです。全知全能の神がいつもわたしと、また、あなたとともにいてくださるのです。あなたの弱さも分かってくくださるし、私たちの愚かさも分かってくくださるし、私たちの罪をすべて知っておられる。しかし、神はそれでもあなたに助けの御手を差し伸べてくださるのです。この約束が2000年前も、それ以前からも、信仰者を励まして来たのです。その約束があるということをペテロは教えるのです。

先にも見たように、確かに、私たちが望むことは迫害がないことでしょう。しかし、実は、この「迫害」「試練」「試み」、ここでは「誘惑」と訳されていますが、こういう出来事は私たちにとって非常に重要なのです。もちろん、信仰の成長のために重要ですが、それ以上に、この試練によって信仰が本物かどうか分かるのです。

#### \* 「試練」こそ、その人の信仰の有無を明確にする

クリスチャンだと自称している人は山ほどいます。問題は、その人たちがみな天国に行けるかどうか？です。あなたは自分はクリスチャンだと言っているかもしれない、でも、問題はあなたが本当に天に行けるかどうかです。みことばはそのことについて教えます。覚えていますか？イエスが「種まき」のた

とえを話されたこと、マタイ 13 章やルカ 8 章に記されていますが、種は四つの地に種が蒔かれます。「道ばた」「岩地」「いばらの中」「良い地」と。岩地に蒔かれた種のことですが、ルカ 8 : 13 に「岩の上に着るとは、こういう人たちのことです。聞いたときには喜んでみことばを受け入れるが、根がないので、しばらくは信じていても、試練のときになると、身を引いてしまうのです。」と書かれています。何も問題がなければ喜んでいますが、試練が起こると離れて行ってしまいます。そんな人たちを知りませんか、皆さん？

なぜ、彼らは試練のときに離れてしまうのか？もちろん、一時的に離れてまた戻って来る人もあるでしょう。間違っていたことに気付いて悔い改めて立ち返って来る人もいるでしょう。でも、ここでは離れて行って戻って来ない人です。この人は「救われていなかった」ということが明らかです。ルカ 22 : 28 でイエスは弟子たちにこのように語っておられます。「けれども、あなたがたこそ、わたしのさまさまの試練の時にも、わたしについて来てくれた人たちです。」と。ある人たちはいろいろな試練があっても主に従い続けていこうとします。でも、ある人たちは試練とともに離れて行ってしまいます。前者の人たちは救いに与っている人たちです。その人たちは辛いことがあっても悲しいことがあっても主を捨てたりはしません。従って行こうとします。このように本当に救いに与っているのかどうか？そのことを知る一つの大きな出来事はまさにこの「試練」です。

◎「救い出す」(Ⅱペテロ 2 : 9) : このことばは「守る、救う」の意味です。あなたが救われているなら、あなたのクリスチャンとしての生活には次から次へと様々な試練がやって来ます。イエスの約束は「あなたを守る。あなたから離れない。」です。私たちが黙示録の学びをしたときにこのみことばを見ました。黙示録 3 : 10 「あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時にも、あなたを守ろう。」と。この試練は患難時代です。その試練が訪れる前に大変な苦しみが来るのですが、そのときに「わたしはあなたを守る。」と言われます。だから、私たちクリスチャンは患難時代に入ることがない、神が守ってくださるのです。私たちはその約束に立って今日生きることができるのです。今、いろいろな困難があっても、神はその困難の中で「わたしは決してあなたから離れない。あなたを見捨てない。あなたといっしょにいる。」と、そして、後に来る、ダニエルが言ったように、かつてなかったほどの困難なとき、人類が経験したことのない困難が訪れるときに、神は「わたしはあなたを救い出す」と言われるのです。

なぜ、このように断言できるのか？思い出してください。あのノアのときに、洪水が押し寄せたときに神はノアとその家族を守られました。ソドムとゴモラに火が降ったときに、神は言われていたようにロトとその家族を守られました。言われているように、神は救い出してください。あなたを見捨ててどこかに行ってしまうのではない。あなたとともにいてあなたを守り続けてくださるのです。そのような祝福に私たちクリスチャンは与っているということです。私たちは決して一人ではない、この神とともに生きているのです。そして、私たちのこの地上での生活が終われば、その神を実際に見ながら永遠を過ごすのです。この祝福を私たちはいただいているのです。

信仰者の皆さん、私たちにとって大切なことは、主がこれまでに為された様々なみわざからしっかりと学ぶことです。それらの出来事を通して、そして、この聖書を通して、神がどんなお方であるかということ私たちに明らかにし続けてくださっています。あわれみにおいても、真実さにおいても、愛においても、御力においても、この方に勝る方は存在していません。この神があなたを守り続けてくださる、この神があなたを支え続ける、この神があなたを励まし続ける、この神があなたにこの神の平安を与え続けると。皆さん、この祝福をいただいた者として生きる責任があります。神がともにおられるという確信をもって生きることです。

思い出しませんか？このみことばを聞いたときにあなたの心が喜んだ、そのときのことを…。私も絶対に忘れることができないのは、教会から家に帰る途中にこのみことばを思い出して、今日、私は神を信じ、そして、その神は自転車に乗っている今この瞬間も私とともにいてくださる、決してあなたを見捨てないと言われる、そのことの喜びに満たされたときです。このような生活を私たちは今この地上にいて実践できるのです。そのように生まれ変わったし、この祝福はあなたのものであり私のものです。それにふさわしく生きて行きたいものです。この祝福をいただいた者としてそれにふさわしく生きて、この祝福は信じるすべての人に与えられることを明らかにしていきたいのです。

## 2. 不義な者へのさばき

9 節の後半には「不義な者へのさばき」が書かれています。見てください。「不義な者どもを、さばきの日まで、懲罰のもとに置くことを心得ておられるのです。」と。

◎「不義な者ども」 : 「不義な者」とは「神の律法を犯す者」です。神の教えに逆らい続けている者、神に背き続ける者たちです。

◎「懲罰」 : 彼らを「懲罰のもとに置く」と言います。「懲罰」という動詞は受け身で、だれかによって懲罰を受けるということです。当然、懲罰を与えるのは神ご自身です。神がこの不義な者たちに懲罰

を与えるのです。

◎「置く」：「懲罰を与える」という動詞の時制も、その後にある「置く」という動詞も、この二つのことばが明らかにしているのは、この不義の者たちは懲罰の許に留まり続けるということです。そこに保留させられる、そこから勝手に出て来ることができないという、そのような状態を教えています。

でも、いつまでもそこにいるわけではありません。9節に書かれているように「さばきの日まで」です。その時まで、この懲罰の許に置かれ続けて行くのです。そこから出て来るとき、それは「さばきの日」です。どういうことか？実は、聖書にそのことを教えている箇所があります。皆さんがよくご存じの「金持ちとラザロ」の話です。この二人が死んだ後、彼らが行った場所が違いました。ラザロは祝福の場所に行き、金持ちは大変苦しい場所に行きました。このように書かれています。ルカ16：23-26をご覧ください。「：23 その金持ちは、ハデスで苦しみながら目を上げると、アブラハムが、はるかかなたに見えた。しかも、そのふところにラザロが見えた。：24 彼は叫んで言った。『父アブラハムさま。私をあわれんでください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすように、ラザロをよこしてください。私はこの炎の中で、苦しくてたまりません。』：25 アブラハムは言った。『子よ。思い出してみなさい。おまえは生きている間、良い物を受け、ラザロは生きている間、悪い物を受けていました。しかし、今ここで彼は慰められ、おまえは苦しみもだえているのです。：26 そればかりでなく、私たちとおまえたちの間には、大きな淵があります。ここからそちらへ渡ろうとしても、渡れないし、そこからこちらへ越えて来ることができないのです。』」

今見たように、金持ちは懲罰の許に置かれ、そこに留まり続けなければならない、そこから出て来ることができないのです。大変苦しい中で「私はこの炎の中で、苦しくてたまりません。」と言っている通りです。アブラハムが言うように「私たちとおまえたちの間には、大きな淵があります。ここからそちらへ渡ろうとしても、渡れないし、そこからこちらへ越えて来ることができないのです。」、閉じ込められた状態です。まさに、ハデスの中にいるこの金持ちの様子、そのことをペテロはここで私たちに明らかにしているのです。もちろん、これはこの金持ちだけのことではなく「不義な者どもを」です。複数です。神に背を向け続けるすべての者たち、神の愛を拒み続けるすべての者たち、救いを拒み続けるすべての者たち、どの時代だろうと、どの国であろうと、もちろん、その中には聖書に出て来る多くの人たちも含まれています。

\*そして、最後のさばきの日待つ：黙示録20：13に最後の審判のことが書かれています。「海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのの自分の行いに応じてさばかれた。」と。その日まで、彼らはそこに閉じ込められているのです。

ですから、神に背き逆らい続けた者たち、救いを拒み続けた者たちに待っている運命は？みことばが教えているように、彼らはこの地上で死を迎えるとハデスに行き、その炎の苦しみの中で最後の審判のときを待ち続けるのです。そして、その日に彼らはよみがえって来て、神の前で自らの罪が明らかにされて、そして、彼らは地獄へと送られます。神が為さるこのさばきにおいて過ちは全くありません。なぜなら、神はすべてのことをご存じだからです。神はすべての行動もことばも思いも考えも、すべてをご存じです。だから、正しいさばきを下すことができるのです。このような運命があるということです。私たちはどちらかです。祝福の下にあるのか、のろいの下にあるのか、永遠の天国に向かっているのか、永遠の地獄に向かっているのか、どちらかです。

◎「心得ておられるのです。」：これは「知っておられる」という意味です。公正なさばきが為されることを意味します。

### C. 暴露された偽教師たちの罪 10a節

これらのことを明らかにしたペテロは、10節の初めにこの偽教師たちの罪を今一度暴露しています。「汚れた情欲を燃やし、肉に従って歩み、権威を侮る者たちに対しては、特にそうなのです。」と書かれています。この偽教師たちが確実にさばかれるその理由、それは彼らの「罪」です。偽教師たちがいかに罪深い者であるか、ペテロは二つの特徴によってそのことを明らかにしようとしています。

\*偽教師たちの罪深さはその生き方が証明していた：二つの特徴

#### 1. 歩んでいる

「歩み」ということばが使われています。現在形ですから、継続して彼らはそのように歩んでいる、生きているということです。もっと言えば、「追い求めている」ということです。何を追い求めているのか？

1) 汚れた：「汚れた情欲を燃やし」とあります。「禁じられているものを憧れたりすること、肉の欲望を燃やしている様子」です。この偽教師たちは自分の肉がもたらす快樂の虜に、奴隷になっているのです。自分の思うように生き続けようとしていると言います。

2) 肉：「肉に従って歩み」、「肉欲」のことです。肉欲を満たすことを求め続けているのです。Ⅱペテロ3：3に「まず第一に、次のことを知っておきなさい。終わりの日に、あざける者どもがやって来てあざけり、自分たちの欲望に従って生活し、」と書かれている通りです。

これが偽教師たちの姿です。彼らは神などどうでもいいのです。彼らは自分たちの快樂を満たすためにすべてのことをし、それを追い求めているのです。まさに、それが彼らが最も愛するものなのです。だから、彼らは見かけはどうであれ、さばきに服する運命だとペテロは言います。

## 2. 権威を侮る

二つ目の特徴は「権威を侮る者たち」とあります。

・「権威」：このことばは新約聖書に4回しか出て来ません。もちろん、「力」とか「権威」ということですが、「主人、主権、支配権」と訳することのできることであります。つまり、彼らは自分の肉の欲するままに、欲望の欲するままに生きているだけでなく、主なる神を侮っている、主なる神を敬うこともその権威に従うことも全く考えていないということです。考えていないから好き勝手な生き方をするのです。エペソ書1：21に「すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世ばかりでなく、次に来る世においてもとなえられる、すべての名の上に高く置かれました。」と、キリストのことがこのように記されています。

・「侮る者たち」：しかも、「権威を侮る者たち」と書かれています。「侮る」という動詞は新約聖書に9回書かれていて「軽んじる」という意味ですが、現在形を使っているのです。まさに、これが彼らの習慣的な神に対する態度であるということです。決して、神を敬うことをしない、神のみこころに従って行こうとしないのです。

・「特にそうなのです。」：続いてこのことばがあります。これは「彼らには必ずさばきがある」ということを強調するのです。

これが彼らの特徴だとペテロは教えます。しかし、これだけを見ると、なぜ、人々はこんな人たちに従って行こうとするのでしょうか？なぜ、こんな人たちに惑わされるのでしょうか？と思いませんか？この人たちが入り込んでいた教会は混乱していました。実は、この人たちは口では正しいことを言っているのです。でも、行いはそれとは全く違ったのです。テトス1：16に「彼らは、神を知っていると口では言いますが、行いでは否定しています。実に忌まわしく、不従順で、どんな良いわざにも不適格です。」と書かれている通りです。そのような人たちだったのです。教師ですから彼らは教えます。それらはもちろん真実ではありませんが、巧みに偽りを教えるので、聞いている者たちは惑わされます。教え自体も問題ですが、もっと大きな問題は、彼ら自身が本質的にどんな人間であるか？彼らの本性です。そのことをペテロはここで暴露するのです。だから、神は警告したのです。彼らがさばかれなくて終わることはない、必ず、彼らはさばきに服すると…。先に見たように、神を騙すことなどだれにもできません。神はすべてのことをご覧になっています。私たちはいろいろな言い訳をするかもしれませんが、でも、本当の心の奥底の、私たちを行動へと導く核的な部分があるいはごまかすことができるかもしれませんが、神をごまかすことはできません。

この中で、まだ、イエス・キリストを信じないで逆らい続けている方がおられるなら、あなたに警告をします。あなたがどんなに宗教的であったとしても、あなたがどれ程いい人間になろうと努力をしても、イエス・キリストの救いを受け入れるまでは、あなたの罪が赦されることはありません。逆らい続けて来たあなたが、神の前にその罪を悔い改めて、そして、備えられた完全な救いを心から信じるまでは、あなたは生まれ変わることがありません。今、この瞬間にあなたに言えることは、あなたはこの瞬間に地獄に向かっているということです。悔い改めることです。そして、イエスが為された完全な救いを心から信じて救いに与ることです。

クリスチャンの皆さん、神はあなたのことをすべて知っておられます。私たちは神に赦していただくために一生懸命生きているわけではありません。私たちはこの地上にあって赦された者として生きるのです。私たちは子どものときからあることを願って生きて来ました。それは、自分を愛する者を悲しませたくない、親を悲しませたくない。正しいことです。でも、私たち信仰者として、神を悲しませたくないとそのように思いながら生きていますか？そこを忘れていませんか？私たちの愛する親もこの方によって造られました。親にそのような思いを持つことは正しいことです。しかし、もっと正しいことは、私たちが造り、私たちの親も造ってくださった神を悲しませることを避けて来たかどうかです。

今日、私たちはこのペテロのメッセージを見て来ました。ペテロは神とはどんな方かを教え、その神の為されることは正しいということをお教えました。確かに、私たちは「大きな白い御座」の前で罪のさばきを受けることはありません。しかし、問題は、この地上の生活を終えるその瞬間まで、どのように生きるかということです。神を喜ばせながら生きるのか？それとも神を悲しませて歩み続けるのか？

感謝なことに、赦しがあります。何度でも新たな歩みができます。大切なことは、神を喜ばせたいという思いをもって、失敗したならそれを告白して、神に従い続けることです。そのような歩みをもって私たちの感謝を表していきましょう。主はともにいてくださる。私たちを見捨てることはない。永遠まで終わることがない時間を神は私たちとともにいてくださって支えてくださるのです。次は、私たちの

責任です。この方をしっかり覚えて、この方を喜ばせることを願いながらこの日を生きて行くことです。そのように歩んで、神が為してくださったみわざに感謝を表していきましょう。

《考えましょう》

1. この世に対して、私たちが語るべきメッセージを記してください。
2. 「心得ておられる」(9節)とはどういう意味かを説明してください。
3. 偽教師たちはさばきに対してふさわしい生き方をしていました。彼らの生き方を説明してください。
4. 神はどのような思いで「さばきの警告」を人類に与えられたとあなたは思いますか？  
どうすればその思いを共有することが出来るのかを考えて書き出してください。